

ポリシーブック2026

～若手農業者の政策提言～



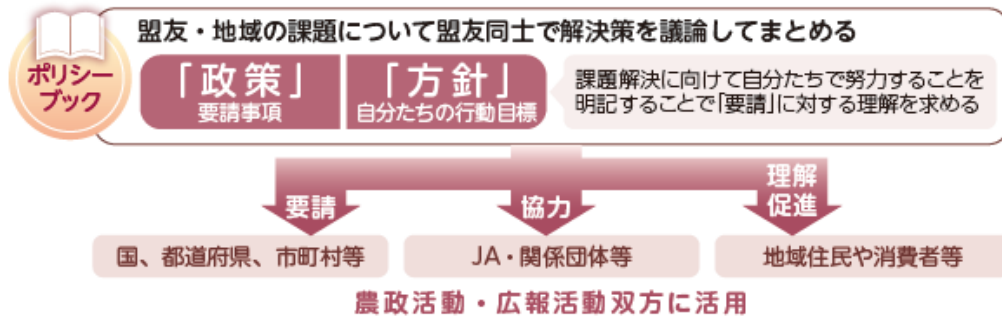
JA静岡青壮年連盟

ＪＡ青壮年部「ポリシーブック」とは

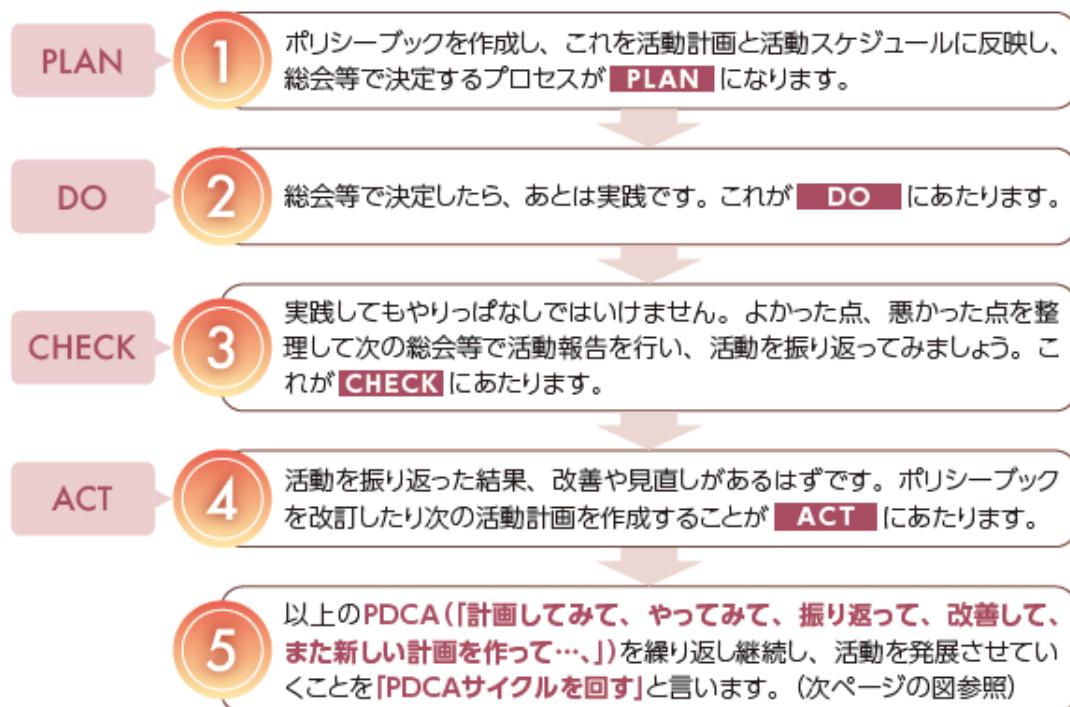
ＪＡ青壮年部「ポリシーブック」とは、将来の日本農業を支える立場である青壮年農業者一人ひとりが、営農にかかる課題から農業政策まで幅広い視点で課題意識を持ち、その解決策を自分たちで積上げ・検討する青壮年部活動の根幹を成す取り組みである。

盟友一人ひとりが洗い出した個々の農業経営、地域農業の課題等を組織に結集し、自分たちの力で解決策を考え、ポリシーブックという政策提言集を作り上げる。その過程を通じ盟友個々の資質向上を図るとともに組織の活性化につなげ、かつ、行政や関係機関等に対して青壮年部の考え方を主張するツールとして活用していく。

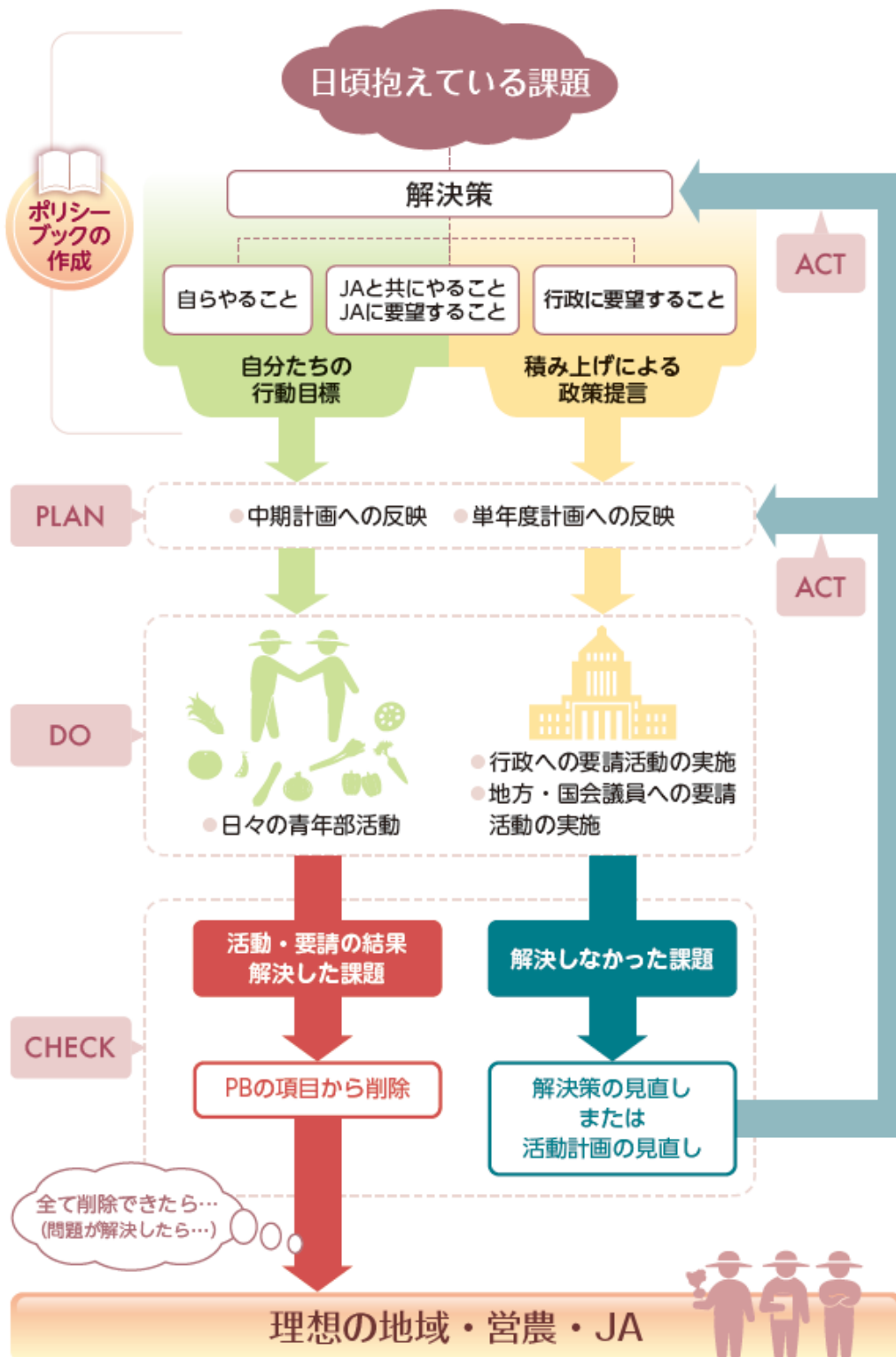
○ポリシーブックの概要



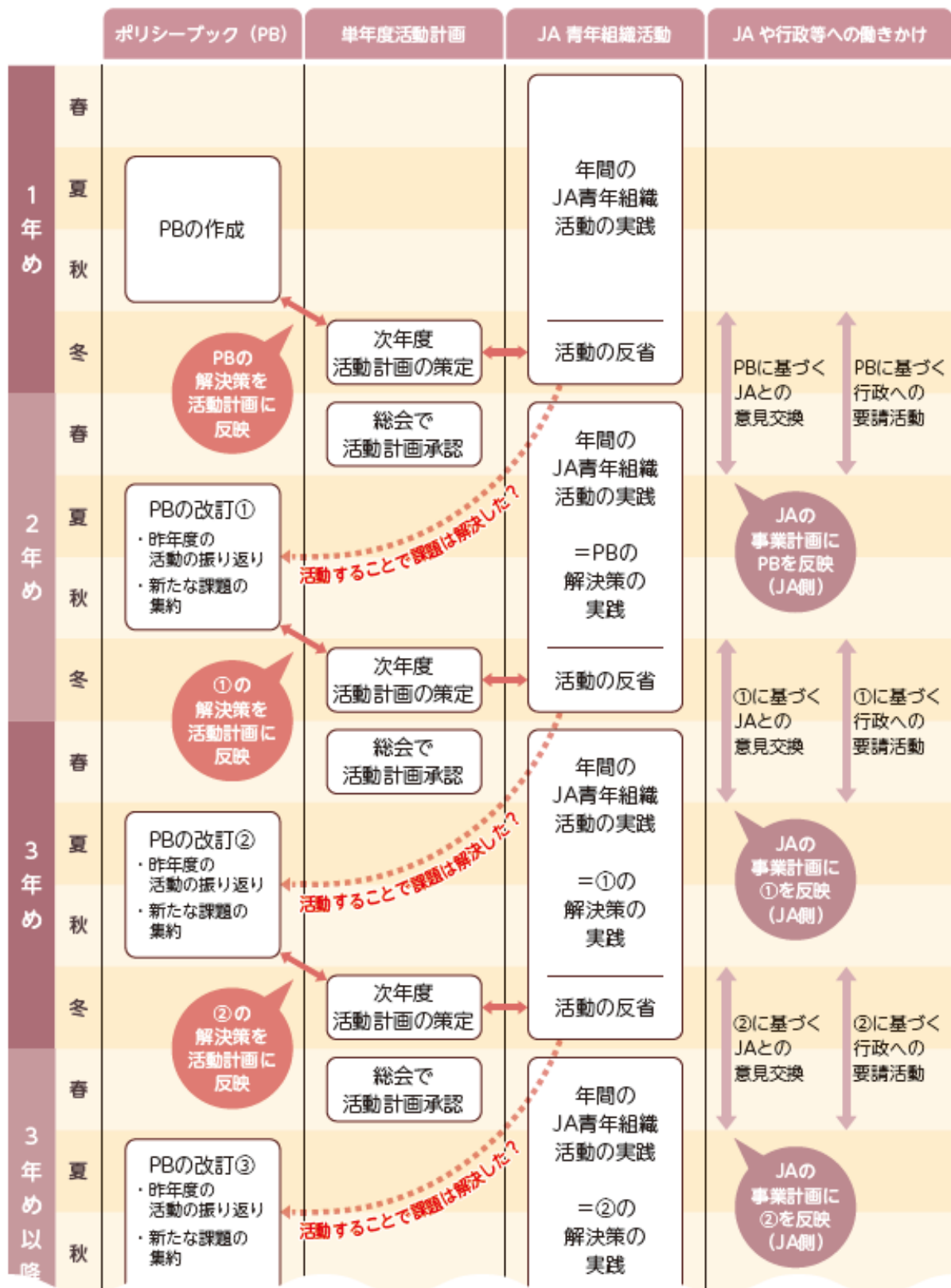
○ポリシーブックの取り組みの流れ①



○ポリシーブックの取り組みの流れ②



○ポリシーブック作成・活用のスケジュール例



引用元：JA全青協ポリシーブック 2025

目次

I 課題の概要と解決策（重点活動項目）

1. 生産資材価格高騰対策について・・・・・・・・・・ 1
2. 農地対策について・・・・・・・・・・ 2
3. 鳥獣害対策について・・・・・・・・・・ 3

II J A 静岡青壮年連盟の概要

J A 静岡青壮年部活動 3 か年計画

「新時代への心技体～Challenge and Grow Together～・・・・・・ 7

J A 静岡青壮年連盟とは・・・・・・ 10



1. 生産資材価格高騰対策について

課題

農畜産物の生産に必要な不可欠な肥料、飼料、燃油などの生産資材価格の高止まりが続いていることから農業経営が厳しい状況にある。

解決策

【個人・J A 静岡青壮年連盟としての取組み＜自助＞】

- ▶ 土壌分析を積極的に実施し、適正な施肥量を把握することで、過剰な肥料使用を抑制する。
- ▶ 害虫の天敵を導入するなど I P M（総合的病害虫・雑草管理）を活用し、農薬使用回数の削減に努める。
- ▶ J A の取扱外で使用している資材について、まずは J A 職員と対話を行い、取扱可能かどうか相談する。

【J A と一体となった取組み＜共助＞】

- ▶ 生産者の経営規模に応じた多様な施肥設計を、J A と協力して作り上げていく。
- ▶ 新たな資材導入に関する試験結果等を、青壮年部に共有しながら活用していく。
- ▶ J A グループのスケールメリットを生かした生産資材の一括共同購入などによりコスト低減に資する事業を積極的に実施し、生産にかかる経費の低減を図る。

【行政に提案・要望する事項＜公助＞】

- ▶ 汚泥や畜産堆肥など、低廉な地域の未利用資源を資材として使えるようにするとともに、既存資源の所在や種類を周知し、生産者が未利用資源を有効に活用できる体制の構築を要望する。
- ▶ 現行の補助金制度は申請期間が 1 か月程度と短いため、農業機械更新のタイミングと合致しにくい。申請期間の延長など条件緩和を行い、より活用しやすい補助金制度とすることを要望する。

2. 農地対策について

課題

農業者の高齢化による離農によって耕作放棄地が増加している。担い手不足や農地集約が進んでいないこともあり、耕作放棄地の解消が見込まれない。

また、耕作放棄地は病害虫の発生原因にもなっている。

解決策

【個人・ＪＡ静岡青壮年連盟としての取組み＜自助＞】

- ▶自身の保有している農地は遊休地化させない。
- ▶目指す将来像がわかるように自身の営農の中期計画を策定する。

【ＪＡと一体となった取組み＜共助＞】

- ▶数年以内に離農または手放す予定の農地を事前に把握し、規模拡大を希望する生産者へ耕作放棄地となる前に引き継げる体制をＪＡと共に構築していく。
- ▶維持管理された農地を、新規就農者や規模拡大を検討する中・大規模農家へ優先的に斡旋し、農業者数の維持・確保に向けて協働して取り組む。
- ▶特に優良農地は、新規就農者にとって必要な土地であるため、耕作放棄地になる前に円滑に引き継げる体制をＪＡと共に整備していく。

【行政に提案・要望する事項＜公助＞】

- ▶担い手確保につながる農地の基盤整備を推進するよう要望する。
- ▶規模拡大を希望する農家・法人に対し、条件に適合した農地を紹介・斡旋できる体制の構築を要望する。

3. 鳥獣害対策について

課題

鳥獣被害は農業経営に深刻なダメージを与え、耕作に対する意欲が減退し、地域農業の衰退につながっている。また、鳥獣被害が増大している中で鳥獣対策の担い手の減少や高齢化が進展しており、より効果的・効率的な鳥獣害対策が必要とされる。

解決策

【個人・ＪＡ静岡青壮年連盟としての取組み＜自助＞】

- ▶鳥獣害対策用の鉄柵・電気柵を適切に設置する。
- ▶収穫した農作物を畑に放置せず、速やかに処理することでエサ源を残さない。

【ＪＡと一体となった取組み＜共助＞】

- ▶鳥獣害対策委員会などを組織し、講習会・意見交換会の開催や免許取得補助などをＪＡと連携して共に実施していく。
- ▶農家から猟友会への連絡を円滑に行えるよう、ＪＡが中継点となり迅速に対応できる仕組みづくりをＪＡと協働で整備する。
- ▶地域全体で話し合いの場を設け、対策意識の向上を図るとともに、より根本的な解決に取り組みをＪＡと共に進めていく。

【行政に提案・要望する事項＜公助＞】

- ▶鳥獣駆除を行う団体が設置されていない自治体もあることから、各市町において設置されるよう要望する。
- ▶鳥獣害対策用柵の設置補助金について、現在は予算上限や次回申請までの間隔が長く、短期間に集中的な施工が困難である。より効果的な対策のため、短期集中での設置が可能となるよう、予算配分の見直しを要望する。
- ▶鳥獣害対策柵に関する補助制度は、団体（３戸以上）での申請でなければ助成率が低くなる。農地の集約化がすすみ団体化が難しい地域もあるため、戸数ではなく面積を基準とした柔軟な判断が可能となるよう、要件の変更を要望する。

J A 静岡青壮年連盟次期 3 か年計画

I. 名 称

「新時代への心技体 ～Challenge and Grow Together～」

II. 実施年度

令和 7 年度～令和 9 年度（2025 年度～2027 年度）

III. 基本的な考え方

J A 静岡青壮年連盟 3 か年計画「新時代への心技体 ～Challenge and Grow Together～」は、令和元年に策定した「10 年後の現実像」の実現に向けて取り組む 3 期目の中期計画である。これまでの実践状況や農業・J A をとりまく環境変化をふまえ、総仕上げとなるよう活動を展開する。

本 3 か年計画は、農業所得の向上、農業の継承、組織基盤の強化に向け、本県 J A 青壮年部が取り組む基本目標を示すとともに、目標達成のために想定される施策をとりまとめている。

全盟友が一丸となり、J A とともに本 3 か年計画の実践に取り組むものである。

《 10 年後の現実像 》

- 農業所得向上を実現し、生き生きと農業を行っている
～圃場巡回は高級車で！～
- 農業の魅力が広く認知され、就農希望者が大挙している
～なりたい職業ランキングベスト 10 入り！～
- 盟友が青壮年部活動に積極的に参加している
～全盟友が活動参加！～

< 名称設定理由 >

生産資材価格の高騰や猛暑・局地的大雨等の異常気象により今までの農業技術が通用しない時代へと変化している。この新しい時代に対応するために、挑戦を続け、盟友自身の「心技体」をバランスよく高めながら、J A とともに組織基盤・農業経営力向上を目指すことを表現した。

※心技体…心は熱意や精神力、技は技術や知識、体は体力や健康を表している。

Ⅳ. 基本目標・重点活動

基本目標１　ＪＡとともに農業所得を向上する

盟友とＪＡとの相互理解を深め、ともに農業所得向上・地域農業の活性化に努める

（１）盟友同士かつ盟友とＪＡ役職員が、互いに高め合うことで、農業経営力向上を図る

- ①専門知識や技術の習得、農業経営力向上に向けた研修会を実施する
- ②多様な農業経営等を学ぶための視察・意見交換会を実施する
- ③青壮年部専門誌である地上・日本農業新聞の購読と活用を推進し、農業の情勢・環境変化を学ぶ

（２）ＪＡ・行政等関係機関に対して責任ある政策提言を積極的に行う

- ①農業情勢や農業政策についての知識を深める
- ②行政等の関係機関に対して、ポリシーブックを用いて政策提言を行う

基本目標２　農業を将来にわたって継承する

自らが農業を継続・発展できる環境づくりに取り組むとともに、次世代へ農業をつなぐため、農業の魅力、青壮年部活動への共感を高めていく

（１）「食と農」・青壮年部活動への共感を高める地域活動に取り組む

- ①食農教育活動や社会貢献活動により、地域住民が農業に触れる機会を積極的に提供する

（２）農業を取り巻く様々なリスクについて学び備える

- ①災害や緊急事態の備えについて、継続的に学習する
- ②元気に営農を継続するために、健康意識向上を図る

（３）新たな農業の担い手の確保に取り組む

- ①ＪＡ・関係機関と連携し、新規就農希望者の支援に取り組む
- ②農業を将来の職業として選択してもらえるように、農業高校生・大学生に働きかける

基本目標 3 組織基盤を強化する

青壮年部組織間の連携強化と次世代のリーダー育成に取り組み、魅力ある組織活動を展開することで、組織基盤の強化を図る

（１）青壮年部の結束力を高める仲間づくりと人材育成に取り組む

- ①研修等を通じて J A 運営および地域を牽引するリーダーを育成する
- ②青壮年部活動の魅力・活動の周知と活動の活性化により新入部員を獲得し、併せて正組合員化を進め、J A 経営に参画する土台をつくる

（２）支部や単組を超えた絆づくりに取り組む

- ①他の単組や関係組織との交流を積極的に行う
- ②インスタグラム等 SNS を活用し、組織を超えた情報共有を強化する

J A 静岡青壮年連盟とは

J A 静岡青壮年連盟は昭和 26 年 11 月 7 日、前身の静岡県農協青年連盟連絡協議会として発足しました。当時、県内の青壮年部組織は 13 郡連・120 組織余りを数え、盟友数は約 6,000 人を有していました。

令和 7 年 4 月 1 日現在では、9 組織、1,142 人の盟友数となっています。3 か年計画の着実な実践により組織活性化を図るとともに盟友の加入促進に取り組んでいます。



JA 青年組織綱領

我々 JA 青年組織は、日本農業の担い手として JA をよりどころに地域農業の振興を図り、JA 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、JA 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

JA 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らが JA の事業運営に積極的に参画し、JA 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた JA の発展のため、自らの組織である JA の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい JA 運動を探求し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

JA 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

JA 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈)本綱領は、JA 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川5原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立 50 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき JA 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成 17 年3月 10 日制定)。